

# 大津百町瓦版

大津・町家・まちなか・いろいろ情報

夏 季 号 [No. 40]

2019年 7月

発行 大津の町家を考える会

大津市中央1丁目8-13

TEL・FAX 077-527-3636

Email: otsu.machiya@gmail.com



## 逢坂山に関所はあったのか？

逢坂山には上の写真のような「逢坂山関跡」の石碑があることから、有名な箱根の関所や信州・東北にあるような太い格子状の塀で囲まれ、関守の武士が「入鉄炮出女」を厳しく詮議していた・・・と思われる方も多いことでしょう。

この逢坂山にある石碑は昭和七年滋賀県により建てられたようですが、大津歴史博物館が発行した「大津 歴史と文化」には「関所とする確証はない」と書かれているそうです。

古代、律令制度により設けられた東国との境に不破、鈴鹿、愛発の三つの関があり、壬申の乱のとき大海人皇子が吉野を出て大友皇子軍の先手を打って不破、鈴鹿の関を抑え戦いを有利に進めたとの話は有名です。この三関は時代を経るとともに場所も機能も変わっていったようです。

逢坂の関も設けられたのは平安遷都以前のことで、何処にあったのかも分からないし、そもそもその時代の関所ははたしてどんなものだったのか？よく分からないそうです。

平安時代は朝廷で天皇や上皇が亡くなったときなど、重大事件が起こる場合に備え、美濃、伊勢、近江の関に兵士を派遣し関を固めたようで、当時の関はいつ兵士が派遣されて来ても良いように、兵器が備えられ管理・維持する関守もいたと言われています。しかし、そのようなことで機能するのはまれで、一般庶民の日常生活に関係の無いものだったようです。

### 関はなく旅人は自由に往来

江戸時代幕府の道中奉行が作成した『東海道分間絵図』の逢坂峠には、「逢坂関」とか「関跡」の表記もありません。峠のところには「関の明神」と記されています。「関の明神」は現在東海道沿いに三社ある「関蟬丸神社」のことで、大谷の「蟬丸神社」の様です。昔は「蟬丸大明神」と呼んでいたそうです。

古くから逢坂の関を詠んだ歌は沢山あるのですが、関所そのものを詠んだ歌が無いのも不思議なことです。